

自然や食、十勝を体験

サミットに向け「プレスツアー」

来年7月の北海道新サミット（主要国首脳会議）に向け、海外の在日報道関係者に道内の魅力を知らせてもらう「プレスツアー」（同サミット道民会議主催）が21～22の3日間、道東を中心に開催されている。ツアー一行は20日午後10時入り、市内の十勝産菜園センターを訪れ、十勝産のチーズや豆腐くん製を試食した。

サミット会場などの視察をしてもらうことも、道内の自然や食、文化を体感してもらう。北海道の魅力を世界へ発信する機会。今回が1回目。来年4月までに道内各地で計5回のツアー開催を予定している。

スペインや中国、ドイツの在日外国人記者ら10人が参加。20日午前、東京から釧路空港に到着し、釧路空港、阿寒湖、帯広を回った。同センターでは、管内のカマンベールチーズ、豆腐くん製のほか、ホエー酸、十勝野菜のレトルト食品「ポタージュ」の試食が提供された。

また、熊本光昭十勝支庁長が十勝農業の概況を、帯広畜産大学の梅津一孝教授が畜産のバイオマス関連の取り組みを紹介した。



チーズや豆腐くん製を試食する在日外国人記者ら

温暖化は十勝の農業にどのような影響を与えているか」などの質問が出されていた。

欧州通信社向けに報道写真を提供するヨーロッパ・アンプレスフォトエージェンシーのエバレット・ブラウン日本支店長は「豆腐くん製が大好きだった。この地域から健康に良い食品が多く世界に出て行くことが期待できる」と話していた。

一行は21日午前、JA帯広かわにしのカイモ選果場を視察した後、羅勝、日高、網走湖へ向かった。22日に羅勝を、（井上朋一）